



The Lung

神戸大学大学院医学研究科
呼吸器内科学

第2巻 第4号

発行:650-0017神戸市中央区楠町7-5-1
神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科
TEL:(078)382-5846 FAX:(078)382-5859
<http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html>

新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく御願いたします。

昨年は12月15日に第80回日本呼吸器学会近畿地方会を会長として開催させて頂きました。教育講演3題、ランチョンセミナー4題、一般演題182題の発表があり、500名以上の先生方にご参加頂きました。多くのOBの先生方にも参加していただき、ありがとうございました。会場ではドタバタしてご挨拶もできず、失礼をお許しください。また、医学生・研修医アワードを本学会としては初めて行い、若手医師の立派な発表に感銘を受けました。詳しくは事務局を担当した小林より報告させて頂きます。

また、昨年も兵庫県喘息死ゼロ作戦の活動を活

准教授 西村 善博



発に行いました。同窓会OBの先生方のお力添えによりプロジェクトが順調に進んでおります。

下記講演会も企画しており、多くの先生方のご参加をお願いしたいと存じます。何卒よろしく御願いたします。

兵庫県喘息死ゼロ作戦講演会

日時:平成25年3月30日(土)午後4時より
場所:兵庫県医師会館大会議室

さて、今回お届けするThe Lungは通算第8号となります。今回は学会報告の他、呼吸器内科スタッフ紹介をさせて頂きたいと存じます。

昨年末より例年よりも寒さが厳しい状況が続いていますが、どうぞご自愛ください。

目次:

ごあいさつ	1
日本呼吸器学会近畿地方会報告	1
各医局員より一言	1
医局員集合写真	2

第80回日本呼吸器学会近畿地方会・第110回日本結核病学会近畿地方会のご報告

特命講師 小林 和幸



昨年12月15日(土)に神戸国際会議場において日本呼吸器学会近畿地方会を開催させて頂きました。寒い時期の開催であり、天候も心配されましたが、比較的穏やかな日となり、509名と多くの先生方にご参加いただくことができました。

教育講演では、「思春期喘息」、「小細胞肺がんの再発治療」、「循環器疾患と睡眠呼吸障害」とトピックス的な内容で3名の講師の先生方にご講演いただき、好評をいただきました。また、ランチョンセミナーを3つの会場で開催しましたが、いずれの会場も多くの先生方にご来場いただき、活発な質疑応答がなされていたと思います。

一般演題は182演題と、当学会としては比較的多くの演題が集まりました。肺がんや間質性肺炎の演題が多くみられましたが、日常臨床でめったに遭遇しないような稀な疾患についても多数の報告がなされ、呼吸器専門医の先生方も勉強になる症例が多かったかと思います。また、一般演題として当学会では初めて、医学生、初期研修医を対象としたアワードセッションを開催しました。各先生方は発表慣れされていないと思いますが、各施設でよく練習された

のか、いずれの先生方も落ち着いて発表されているのが印象的でした。最優秀賞、優秀賞を3名ずつ選出いただきましたが、受賞された先生方からは、「今後の臨床の励みになる。」、「また、学会発表をしたい。」などの声が上がりました。モチベーションのアップにつながったと喜んでおります。また、学会としても、今後も当アワードを継続していただけるようで、二重の喜びを感じております。

当科として初めての学会主催であり、色々至らないところはあったかと思いますが、皆様のご支援にて無事終了できましたことを、あらためてお礼申し上げます。



各医局員より一言



- 西村善博: 今年は「転」の年と考えています。We can change!
- 小谷義一: 今年は消極的にならずにガツガツしたいです。
- 船田泰弘: 今年のモットーは夢を語ること。呼吸器内科の魅力アップと戦後レジームからの脱却を目指します。
- 小林和幸: 神戸大学呼吸器内科の特色を出せるように、アピールしていきます。
- 笠井大介: 昨年より入退院係をしています。入院診療がスムーズに進むように努力したいと思います。また、当科から学術的なデータを発信できるように、学会発表、論文作成を頑張ります。
- 坂下明大: 今年3月からは先端緩和医療学分野に軸足を移すこととなります。昨年までの自分から脱皮して、新たな自分を発見する年にしたいと思います。呼吸器内科を基礎とした緩和医療専門医として活動していきます。
- 立原素子: プラスアルファの肺癌診療を目指します。
- 樋木暢子: 大学にきて7年目を迎えます。「今までの仕事を形にするためにも、1つでも多くの論文を書く。」というのを目標にしたいです。
- 石川結美子: 医師になって11年目となりますが、より経験を積んで充実した1年にしたいと思います。
- 新家治子: 2012年の反省点は、なかなか自分の勉強ができなかったことかと思っています。今年は、制約がある中でも時間を見つけ、少しでも知識を増やしていきたいと思っています。目の前の目標はまず、専門医の取得です。家庭での目標は子どもに“早くしなさい”と言わないことです・・・。
- 田村大介: そろそろ自信を持って自分の色を出し、大学の呼吸器内科が楽しく魅力的な科であるよう尽力致します。
- 永野達也: 呼吸器内科で充実した研究が行えるよう大学院生を引っ張っていきたいと思っています。
- 堀 朱矢: 今年は11年目になります。新たな10年の始まりにふさわしい働きをしたいと思っています。
- 河 良崇: 今年は論文を作成します。実験も方向性を再確認し、Plan Bも考えて進みたいと思っています。
- 島山由記久: 大学院も仕上げの時期となり、気持ちを新たに自分の力を発揮して何か大学に貢献できる仕事をしていきたいと思っています。
- 日下部祥人: 医師となり8回目となる新年の始まりですが、この時期はいつも毎年新しく広がり始まる時という予感があり、またその都度身を引きしめねばと感じます。早いもので大学病院で勤務してもう2年弱が過ぎようとしております。2年弱の間でしたが、それまでの時間よりもより深く医療の本質やエビデンスに対して意識して向き合えたように感じられます。そこで、新年の新たな抱負としましては、こうした意識を忘れず、かつ、より患者さん自身の近くでも動ける医師であるようになりたいと思っています。そして、かなうならばできるだけ自分たち医療者としてのスタンスと、個人としての患者さんの気持ち両方を両立して動くことができればと思います。
- 徳永俊太郎: 探究と発信に邁進したいと思っています。
- 川口智美: 今年は大学病院の当直室で紅白を見ながら新年を迎えました。今年もよく食べよく遊びよく学び成長していきたいです。

The Lung

神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科学

電話 078(382)5846

FAX 078(382)5859

Email: <http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html>

肺がんから「せき」「息切れ」まで
何でもご相談下さい！

